

UPS用 RS-232C 拡張ボード 【GP5-UPC01／GP5-UPC05】

更新日 2013 年 4 月

(1) 概 要

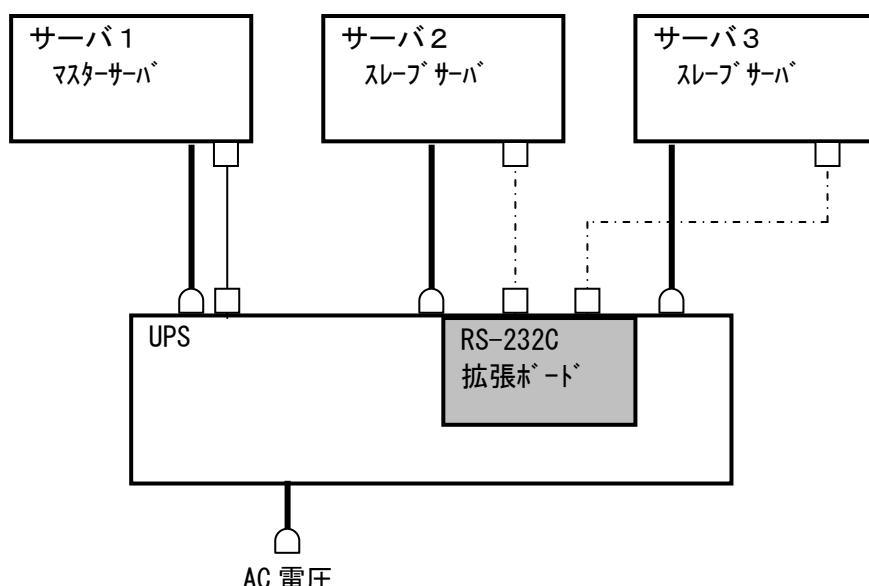
本ボードは、高機能無停電電源装置(GP5SUP103 を除く全機種共通)の背面パネルにある拡張用スロット部に装着して使用するUPSのRS-232C インタフェースポート拡張用オプションボードです。

(2) 特 長

高機能無停電電源装置(GP5SUP103 を除く全機種共通)の背面パネルにある拡張用スロット部に本ボードを装着することにより、本来UPSの背面に標準で1つしかないRS-232C のインターフェースポートを更に2つ追加することができ、1台のUPSで最大3台までのサーバと接続することができます。また、アプリケーションソフト PowerChute plus または PowerChute Business Edition を使用して、合計3台までのサーバを同時に制御することができます。

留意事項:本カードを使用する場合、シャットダウン開始までの時間は2分(固定)となります。

- 3台のサーバを1台のUPSに接続した構成



<凡 例>

- - - - - : GP5-UPC01/GP5-UPC05 添付ケーブル
- — — — — : RS-232C ケーブル(PowerChute plus/ PowerChute Business Edition 添付品)
- — — — — : 電力出力線
- □ □ □ : COMポート

図 1. RS-232C 拡張ボード接続構成図

(3) 接続対象UPS

GP5-UPC01: GP5SUP104, GP5SUP105, GP5SUP107, GP5SUP108,
GP5-R1UP3, GP5-R1UP4, GP5-R1UP5, GP5-R1UP6
GP5-UPC05: GP5SUP110, GP5SUP111, GP5SUP112,
GP5-R1UP7, GP5-R1UP8

(4) 基本仕様

メーカー(APC 社)型名:AP9607
寸法(高さ×幅×奥行):102 × 102 × 38 mm
質量:136g
動作保証温度:+10~+35°C
保管温度:0~+35°C
動作保証湿度:0~95%、結露なきこと
保管湿度:同上
動作保証標高:0~ 3,000 m
適合する EMC 規格:FCC/DOCクラスB, EN50022, EN50082-1

(5) 添付品

RS-232C ケーブル × 2本

(6) 留意事項

- *1 適用可能なUPSは、Smart-UPS 500J(GP5SUP103)を除いた全機種であり、最大3台まで接続されたサーバでそれぞれ異なったOSを使用した場合でも別売のアプリケーションソフト PowerChute plus®またはPowerChute Business Edition ®により同時管理が可能です。
ただし、UPS本体に標準で装備されているRS-232C インタフェースポートと接続されたサーバのみがスケジュール運転等の制御が可能です。
従って、UPS本体に標準で装備されている RS-232C インタフェースポートと接続したサーバからの制御(Power ON/OFF やスケジュール運転等)に、本 RS-232C 拡張ボードでそのUPSと接続されたサーバが連動して動作します。
図1で、サーバ本体1(マスターサーバと呼ぶ)で設定されたシャットダウンに関する動作に他のサーバ本体2, 3(スレーブサーバと呼ぶ)が追随して動作し、停電時及びスケジュール運転によるシャットダウン時にはマスターサーバと同様にスレーブサーバ側でも運用中のサービスソフトとOSのシャットダウンが実行されます。ただし、スレーブサーバ側から Power ON/OFF やスケジュール運転を行うように設定することはできません。
- *2 本 RS-232C 拡張ボード(GP5-UPC01/05)とサーバとの接続には、必ず本ボードに添付の専用ケーブルを使用してください。また、本拡張ボード前面パネルにあるディップスイッチの設定は、出荷時のデフォルト状態("1 2 3 4" = "0 1 0 0")を変更しないでください。

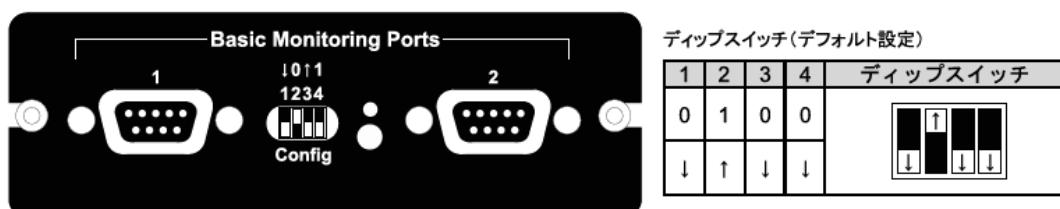


図 2. RS-232C 拡張ボード正面図

ディップスイッチの設定は
上図の通りになっていること。

- *3 本 RS-232C 拡張ボード(GP5-UPC01/05)を使用する場合は、マスターサーバとスレーブサーバの全てにアプリケーションソフト PowerChute plus®または PowerChute Business Edition ® をインストールする必要があります。
また、スレーブサーバにアプリケーションソフトをインストールする際は、必ず通信ポートの自動検出の設定で「いいえ」を選択し、その次に表示されるUPSパラメータのセットアップの画面で「BackUPS」を選択してください。スレーブサーバに既にアプリケーションソフトがインストールされているサーバを適用する場合は、再インストールを行って上記の通信ポートの設定を行う必要があります。

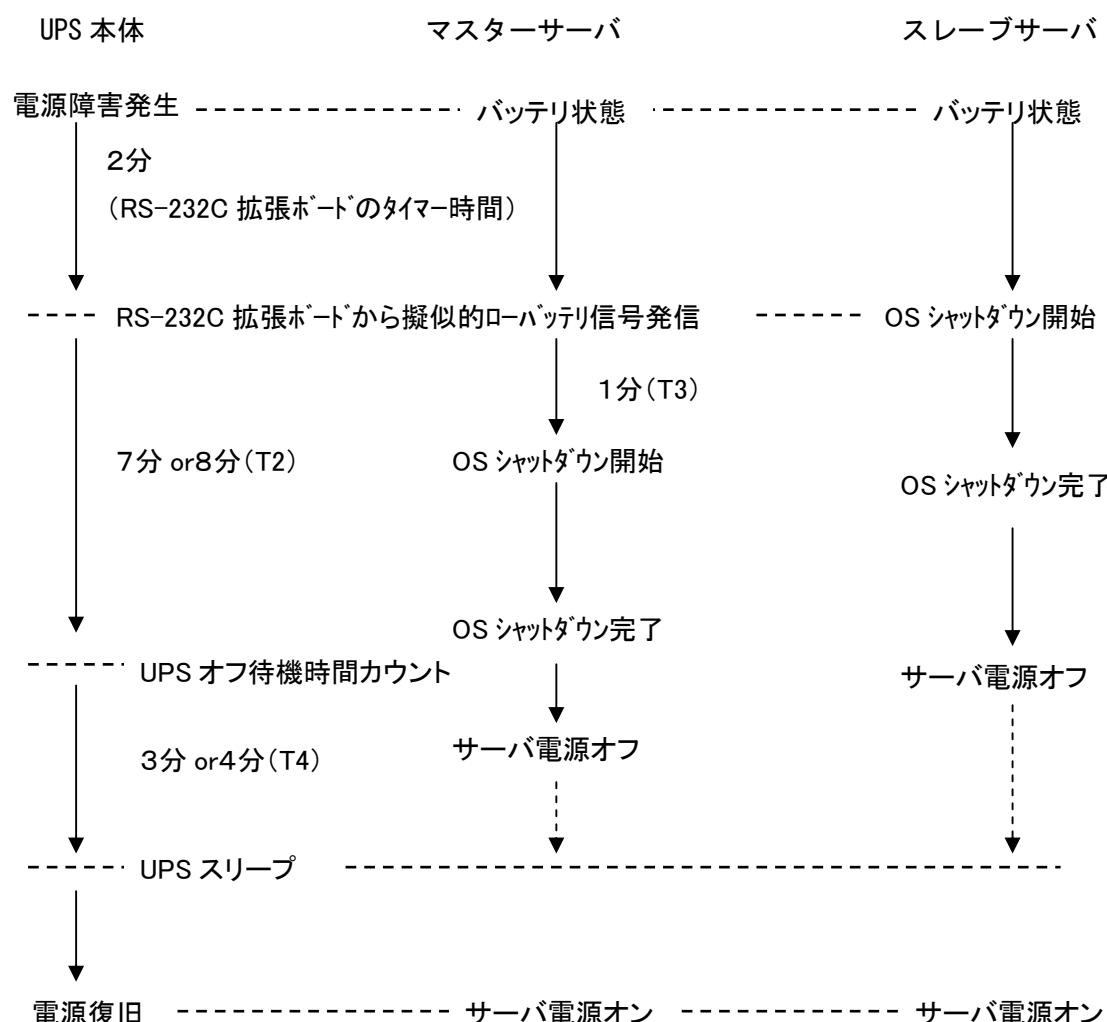
*4 本 RS-232C 拡張ボード(GP5-UPC01/05)を使用する場合、マスターサーバにはシャットダウン完了までに最も時間の掛かるサーバを適用し、そのマスターサーバのシャットダウンに要する時間とUPSに接続された全てのサーバおよび機器の消費電力の合計とを考慮してバッテリ保持時間内にサーバのシャットダウンができるようにアプリケーションソフトの設定を行ってください。

(計算例) 1台の UPS に GP5-UPC01/05 を使用して以下のような3台のサーバを接続する場合

サーバA: シャットダウン完了時間5分、消費電力300W
サーバB: シャットダウン完了時間4分、消費電力250W
サーバC: シャットダウン完了時間3分、消費電力250W

(1) マスターサーバにはサーバAを適用する。(シャットダウン時間最長の為)

シャットダウンの時間関係



記号	マスターサーバ設定項目	設定例
T2	UPS ロバッテリ信号時間	7 分または 8 分 (デフォルト値)
T3	OS 待機時間	1 分
T4	OS 期間	3 分または 4 分 (デフォルト値)

(7) 規格の取得状況

安全規格	対象外(接続対象 UPS に搭載した状態で UL1778 を取得)
電気用品安全法	対象外
電波規格	VCCI クラス B
RoHS 指令	対応済み(GP5-UPC01 を除く)
J-MOSS (日本版 RoHS)	対象外
グリーン購入法	対象外

以上